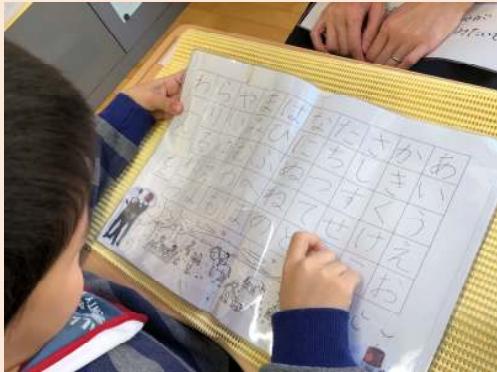


外部専門家との連携 (ST～言語聴覚士～編)

Q: 発語を助ける補助的なツールを教えてください～小学部1年S・Rさんの事例から～

現在は、自分の気持ちを分かりやすく相手に伝えるために50音の文字ボードを活用しています。



STからのアドバイス

コミュニケーションブックはいかがですか? 日常生活で用いる文字単語をまとめ、それを選択することでコミュニケーションがスムーズになると思われます。上位概念でまとめる、使用する場面ごとにまとめる、語頭音でまとめる…等インデックスを付けてまとめると使いやすいですよ。



アドバイスを元に、学校や家庭以外の場所(レスパイト利用など)でも自分の気持ちをスムーズに伝えられるように、「コミュニケーションシート」を作りました。



紙に書かれた文章を手で示して相手に気持ちを伝えます。選択肢の数や手の操作性も児童にぴったりでした。

日常のやりとりは言葉が中心のRさん。

国語の学習でも口を大きく開けて、音読に取り組んでいました。



発語の際に、受け手側に口の動きが分かりやすいように、あるいは発音ができるだけ楽になるように顎を引いた姿勢でお話しましょう。体幹と頭部の位置が正しくなるようにね!



質問コーナー

～職員アンケートより～

Q: 発音指導をしようと思っている。本人が気にして声小さくならないか、心理面が心配。(高等部)

A: まずは姿勢を整えましょう。さらに楽に発音できる姿勢で行うことも考えてみてはどうでしょうか。ゲームをする、ほめるなどの動機づけを行い、コミュニケーションの楽しさが感じられるよう環境の中で行うことも良いと思われます。

